

安川電機 2019 年度 第3 四半期 決算説明会 質疑応答 (サマリー)
(2020 年 1 月 9 日 (木))

【回答者】

代表取締役 専務執行役員 村上 周二

広報・IR 部長 林田 歩

(注記) :

モーションコントロール : モーションコントロールセグメント

AC サーボ : AC サーボ・コントローラ事業 (モーションコントロールセグメント)

インバータ : インバータ事業 (モーションコントロールセグメント)

ロボット : ロボットセグメント

システムエンジニアリング : システムエンジニアリングセグメント

その他 : その他セグメント

Q 決算補足説明資料(P.24)の四半期受注のグラフについて、2019 年度 3Q の各事業の地域別増減率を教えてください。

A ・AC サーボ

全社 YoY▲3%、QoQ+3%

国内 YoY▲12%、QoQ▲5%、米州 YoY+5%、QoQ+6%

欧州 YoY▲15%、QoQ+9%、中国 YoY+18%、QoQ+15%

その他アジア YoY▲7%、QoQ▲5%

・インバータ

全社 YoY▲14%、QoQ▲4%

国内 YoY+6%、QoQ▲5%、米州 YoY▲27%、QoQ▲4%

欧州 YoY▲11%、QoQ+11%、中国 YoY▲7%、QoQ▲9%

その他アジア YoY▲13%、QoQ▲6%

・ロボット

全社 YoY▲17%、QoQ▲2%

国内 YoY▲7%、QoQ▲4%、米州 YoY▲27%、QoQ▲15%

欧州 YoY▲18%、QoQ+19%、中国 YoY▲17%、QoQ▲2%

その他アジア YoY▲24%、QoQ▲13%

※YoY(year-on-year) = 前年同期比、QoQ(quarter-on-quarter) = 前四半期比

Q 19 年度 3Q の AC サーボの地域別売上比率は？

A 国内 37%、米州 16%、欧州 11%、中国 23%、その他アジア 13%

Q 19 年度 3Q のモーションコントロール売上に占める AC サーボの比率は？

A 57%。

Q 3Q 受注をどう見ているか？

A AC サーボの受注は想定より良かった。例年3Qは中国の受注が減少するが今年は2Qの水準を維持し、下げ止まった。足元では春節明けに5Gに向けた動きが出てくる前提で、顧客側で在庫の積み上げに動き始めた。春節明けの市場の立ち上がりを期待している。

Q ロボットの3Q業績を見ると構造的な悪化があったように感じるが、何が起きているか？

A 想定通り弱い。9月に前倒しの受注があり回復を期待したが、10～11月は低水準に戻った。特に自動車関連で案件がなかなか成約しない状況が続いている。中国では新しい分野の試作が行われているが、まだ量産には至っていない。

Q 自動車関連はグローバルで低調か？

A 日本は比較的堅調だが、他の地域は低調だ。

Q オイル&ガスは堅調とのことだがインバータの3Q受注がYoY、QoQでマイナスとなった背景は？

A 昨年の3Qと比較すると減少しているが、2Qとの比較ではフラット。オイル&ガスは1Qが強く、直近では落ち着いてきているが弱くなってはいない。

Q ロボットのアプリケーションを自動車と一般産業に分けた内訳は？

A 受注台数ベースでは、2Qから3Qで大きな変化はない。5割弱が自動車向けで、3C（家電・スマホ）は地域別にばらつきがあるものの、グローバル平均では5～6%程度。

Q 3Qまでの業績を差し引くと、4Qに80億円以上の営業利益を出す必要があり、ハードルが高くないか？

A 3Qは想定通りの実績だった。2Qの決算発表ではリスクを織り込み通期予想を下方修正したが、その修正した予想に対してインラインとなった。4Qは、売上が集中するシステムエンジニアリングなどが利益貢献し、計画を達成できると考えている。

Q ロボットの4Q利益率計画はハードルが高くないか？

A 4Qは売上の増加に加えて、来年に向けて在庫を積む計画で稼働率を上げていくためロボットの4Q利益率計画は達成できると考えている。

Q ACサーボの中国の受注がQoQ+15%の背景は何か？

A 足元で好調なのはレーザー加工機、木工機だ。レーザー加工機は中国では従来ヨーロッパからの輸入品が使われていたが、近年国産化が進み、輸出も始まっている。様々な部品の加工に使われる。また、家具の生産を中国からアジアにシフトする動きの中で、中国産の木工機が輸出されている。

Q ロボットの利益率が四半期推移で落ちてきているが、3Qは在庫を積み増す局面に入っているため、今後は、在庫調整による利益の押し下げ要因はなくなる方向と見て良いか？

A 2Qがロボットの稼働率のボトムで、3Qに在庫を積み始めた。今後受注が落ち込まなければ4Q以降は利益率回復の方向に動く。

Q モーションコントロールとロボットにおいて2Qから3Qにかけて在庫はどのように変化したが、また4Qの計画は？

A 2Qから3Qにかけてモーションコントロールは横ばいで、ロボットは20億円程度増加した。4Qはロボットで10億円の増加、モーションコントロールは横ばいの計画だが、春節明けに再度の見極めが必要だ。

Q モーションコントロールとロボットはどちらも2Qが稼働率のボトムだったのか？

A そうだ。

Q 4Qの受注はQoQでどれくらい上がる見通しか？

A 春節の期間がどうなるか読みにくいが、ACサーボは3Qから4Qにかけて横ばいの見通しだ。ただし、春節明けの受注は来年度上期の業績貢献となり、今期業績への貢献は難しい。

Q 今期業績予想達成の確度は見えているか。

A ACサーボは堅い。

Q バランスシートの負債が増えている理由は？

A 2Qから3Qに約130億円の有利子負債が増加した。80億円くらい手元資金として残っているが、設備投資関連で着工した案件の手付け金などに資金が回っている。昨年度末からでは、在庫を絞り込む中、買掛金が減っていることに加えて、支払いサイトを短縮した影響が80億円程度ある。また、従来オフバランスだったリース資産をオンバランスしたものが50億円程度あり、負債としてカウントしたことも要因となっている。前期・今期の自社株買いも含め、狙ったD/Eレシオの範囲内でコントロールしている。

Q フリーキャッシュフローの今年度予想は？

A 今期は▲50億円を計画しているが、支払いサイトの短縮影響▲80億円を加味すると、実質はプラス30億円の予想。

Q 3Q累計の売上高に対する為替影響は？

A 全社▲93億円。うち、モーションコントロール▲42億円、ロボット▲44億円、システムエンジニアリング▲6億円、その他▲1億円。

Q 5Gに向けた動きとは具体的に何のことか？

A 当社の事業に一番影響するのはスマートフォン端末である。足元ではウェアラブル端末の生産設備に動きがあるが、春節明けはスマートフォンも動き出すと期待している。

Q 代理店の在庫積み増しの動きは3Qにもあったのか？

A 3Qと比較しても12月の受注水準が高くなったので、春節明けに向けた在庫手配の動きではないかとしている。

Q 4Qにシステムエンジニアリングの業績が良くなる理由は？

A システムエンジニアリングは例年下期に納期が集中し、今は期末に向けて仕掛が積みあがっている状況だ。今年は鉄鋼関係の大口案件の売上が4Qにずれ込んだこともあり4Qが強くなる。環境エネルギー事業もパソコン新製品の受注が積みあがっており4Qに出荷となる。

以上